

# 武蔵野市における総合事業の現状と課題 ～訪問介護の立場から～



---

公益財団法人武蔵野市福祉公社

ホームヘルプセンター武蔵野 センター長 三木 明美

# 総合事業の概要



基 準	市の独自基準による訪問型サービス
種 別	訪問型サービスA
内 容	①訪問介護(有資格者) ②訪問介護(研修修了者) 家事援助中心
サービス提供者	①訪問介護員 ②シルバー人材センター・ワーカーズどんぐり・ホームヘルプセンター 武蔵野に登録した武蔵野市認定ヘルパー(いきいき支えあいヘルパー)
費 用	①有資格者 260単位(1回につき) (1割2割3割負担・初回加算・処遇改善加算・特定処遇改善加算・ベースアップ等支援加算) ②研修修了者 210単位(1回につき) (1割2割3割負担・初回加算)

# 総合事業での支援内容①～認定ヘルパー対応～

## 事例①

77歳 男性 ・認知症なし ・要支援2 ・ADL自立 ・視覚障害(3級) ・ご自身で買い物へ行くことができるが、玄関の段差があり転倒のリスクあり。ペットボトルなどの重たいものは認定ヘルパーが買い物代行支援を行う。週1回 1時間

おかげさまで  
元気です。



## 事例②

86歳 男性 ・独居(妻死去) ・認知症なし ・要支援2 ・ADL自立 ・心臓弁膜症、糖尿  
頸椎の痛み、腰痛、膝痛等あり、掃除機掛け、トイレ、浴室の支援を行う。週1回 45分

# 総合事業での支援内容② ~有資格者対応~

## ・事例①

89歳 女性 独居 ・要支援2 ・認知症なし ・原因不明の炎症反応及び下肢浮腫  
・デイサービス通所 福祉用具導入 ・自立支援のため買い物同行の依頼であったが、  
下肢浮腫の悪化みられ、買い物代行に変更。区分変更申請。

認知症あり  
観察が必要



## ・事例②

ご夫婦按分 ・夫 要支援2 ・妻 申請中 のため 有資格者での依頼  
・50分(25分+20分) 掃除機掛け 浴室 トイレ掃除



# 武蔵野市認定ヘルパー (いきいき支えあいヘルパー)

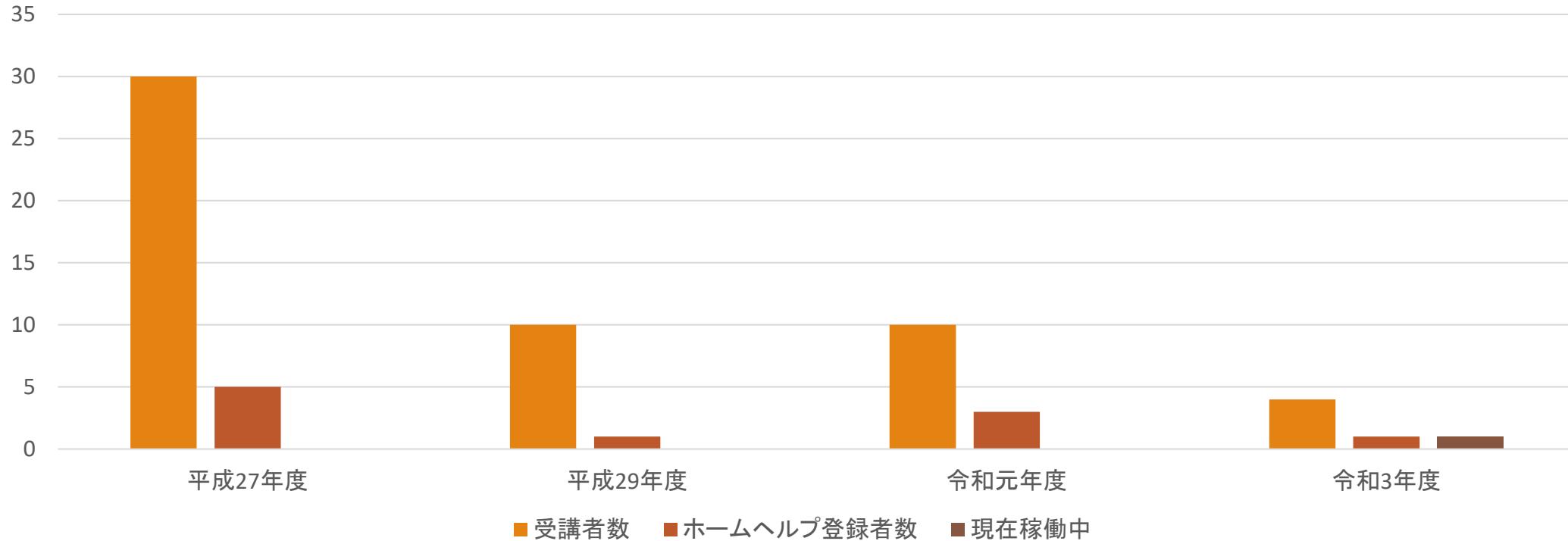
- 武蔵野市地域包括ケア人材育成センターにて養成研修を実施(年2回実施)

- ホームヘルプセンター武蔵野での利用者宅訪問実習  
(コロナの影響あり、訪問実習を中止し、演習実習に変更)  
※サービス提供責任者による演習

- サービスの質の維持を図るため、年1回のフォローアップ研修



## 認定ヘルパー養成講習受講者数と稼働者数



- 平成27年の開始当初は受講生も多く、登録者も数名いたが現在の稼働者は0人。
- 受講生の年齢は60代以上が9割となっており、ホームヘルプセンターへの登録が少ない。
- 現在の登録者は6名([登録ヘルパーからの変更2名](#)・養成講習からの登録4名)  
うち、稼働しているヘルパーは3名

# 認定ヘルパー稼働の現状

## ■ 登録者数の減少・高齢化・質の担保

- ・65歳以上が9割。高齢者が高齢者を支える傾向にあり、総合事業の趣旨には沿うが、安定したサービス提供・質の担保の観点からも若い世代の参加を促進させる必要がある。

- ・経験のない認定ヘルパーへのフォローアップ

利用者の変化や気づきに対応できるよう、定期的な研修が必要



## ■ 登録後の条件がマッチしない

- ・登録の条件の幅が狭く仕事のマッチングができない。(曜日・時間・地区を限定する場合が多い)

(例) 水曜日14:00～15:00の間 活動地域 吉祥寺東町・本町限定

- ・長期間依頼が無いことを理由に、異業種へ転職してしまうことも…

# 総合事業の現状

## ■ 件数の推移(年間/月)

平成31年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度(2月まで)
50名/4名 ・認定ヘルパー1名 ・有資格者 3名	52名/4名 ・認定ヘルパー1名 ・有資格者 3名	55名/4名 ・認定ヘルパー1名 ・有資格者 3名	57名/5名 ・認定ヘルパー1名 ・有資格者 4名	200名/30名 ・認定ヘルパー3名 ・有資格者 20名 (複数件対応)

## ■ 依頼の現状(武蔵野市地域包括支援センターより) と ヘルパー派遣の現状

- ・申請中により要支援か要介護かわからない又は特別な対応が必要な利用者→有資格者で対応が9割
- ・サービス付き高齢者付住宅への派遣→サ高住のヘルパーは、施設での指定申請をしていないため対応不可。  
認定ヘルパー派遣可能な場合のみ対応。(現在1件)
- ・認定ヘルパーによる事業対象者への支援(\*認定ヘルパー3名 9件)

\*登録ヘルパーを卒業し、認定ヘルパーに移行したヘルパー

# 総合事業(訪問介護)の課題

- ・要支援1・2の利用者の訪問介護のニーズはどのくらいなのか？
- ・認定ヘルパー登録者数が増えても稼働できる人数は比例しない
- ・介護保険事業所の新規参入が見込まれない→報酬単価の問題
- ・認定ヘルパーの質の担保ができなくなる→利用者の自立が遠のく
- ・武蔵野市の方向性。2025年を見据えた長期的な計画、方針の明確化  
→要介護1・2の総合事業移行にどう対応するか？

